

AREA WEB エリアウェブ

HPアドレス <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/areaweb.html>
E-mail katou-vxkb@pref.yamanashi.lg.jp

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2731
FAX 0553-20-2733

峡東地域教育推進連絡協議会 保幼・小・中連携セミナー

『健やかな子どもを育むために』

峡東地域教育推進連絡協議会では去る8月8日(水)、甲州市民文化会館において、保幼・小・中連携セミナーを開催しました。講師に山梨大学教育学部長・中村和彦氏をお迎えし、総勢134名の皆さんに参加いただきました。今年度は『健やかな子どもを育むために』をテーマにご講演をいただきました。先生はこれまで文部科学省中央教育審議会や日本オリンピック委員会、NHK教育番組など幅広い分野で教育に関わってこられ、その数多くのご経験を基に、保幼小中の連携、あるいは地域連携の視点に立った子育て・教育の在り方についてご教示くださいました。以下に、講演の内容の一部掲載します。



皆さんが体育を教えている子どもたちが、将来運動を好きになるかどうかです。「今でも好き。もっとやってみたい。体動かすと気持ちいい。心地いい。」という気持ちになれるかどうか勝負なのですが、うまくいってないのです。その歯止めをかけている一つが学校の体育だけではなくて地域のスポーツだと私は思っています。

持ち越せるということは運動だけでなく、学ぶことにおいても大事です。学んでみたい、学び続けたい、学ぶ意欲がある大人になっていくことです。運動では、運動を続けたい、運動をやってみたくい状態になっていくために幼少年期に何が必要かは研究で明らかです。10年ほど前からアメリカで始まった研究なのですが、「持ち越し効果」と言うのです。今、日本の研究者も含めて約60本の論文が出てきました。私も5本くらい書いています。私は専門なので全部読むのです。英語もドイツ語もあつたりしますが、多少、翻訳してもらって全部読みますが、面白いように全部ポイントは同じです。次の三つしかないのです。大人になってからも、ある行動を持ち続ける事というのは、そのことに対して子どもの頃「面白く感じたこと」、そして「心地よかったこと」、さらには「自分からやった」ということです。人から言われて嫌々やるようなことは絶対子どもは持ち越しません。大人は上手いことをすぐに要求しますが、子どもは上手いかなくていいのです。上手いかなくても、自分から面白くやっていた人は、運動で言えば、そのような遊びをしていた人はきちんと残っていくし、そうでない人は止めていくわけです。普段の中でいっぱい遊んでいた、体を動かすことを億劫ではないという子ども時代を送った人は大人になってからも運動しているということになります。スポーツとか特別な物と考えたら駄目なので、日常生活の中の運動が大事です。教育に関しても子育てに関してもそうですが、是非皆さんの目の前の子どもたちが学びに向かうとか学び続けるように育てて欲しいのです。……



子育て講演会のご案内

峡東地域教育推進連絡協議会

演題「思春期のこころの発達と精神保健」

講師：金重 紅美子 先生

(県立こころの発達総合支援センター主任医長)

開催日時：11月22日(木) 15:00開演
場 所：いちのみや桃の里ふれあい文化館



主体的・対話的で深い学びのために

甲州市教育委員会

6月15日(金)の放課後、甲州市民文化会館に甲州市内小中学校の全ての先生方が集まり、平成30年度甲州市「確かな学力」育成プロジェクト(第1回目)が開催されました。講師の高知大学・鹿嶋真弓先生からは「全ての子どもの居場所と絆がある学級・集団づくり」と題して、主体的・対話的で深い学びにつなげるための子どもへの姿勢や声かけ、授業の工夫や学級づくりのためのしかけが示されました。先生方は週末の疲労をものともせず、熱心に耳を傾け、積極的に演習に参加されており、教育への熱い情熱が感じられた研修会でした。



「あー、釣れた！」

山梨市子どもクラブ指導者連絡協議会



6月23日(土)三富久渡の沢つり場で親子ふれあいマス釣り大会が行われ、梅雨曇りの中、総勢140人もの親子が集まりました。開始とともに、あちらこちらで「あー、釣れたー!」という子どもたちの声が響き渡り、親子で顔を見合わせて喜ぶ姿が見られました。いとも簡単に釣り上げてしまう女の子もいれば、取り込みに悪戦苦闘する男の子もいました。お父さんお母さんは、針に餌を付けてあげたり、釣れた魚を針から外してあげたりと忙しく子どもたちの面倒をみていました。また、一緒に一本の釣りざおを持つお母さんもいれば、釣り方を指南するお父さん、子ども以上に真剣に釣りに熱中するお母さんもいました。大会後は釣った魚を焼いて食べる家族もあり、つかの間ではありましたが、大会名の通り、親子がふれあえたイベントでした。

自分の気持ちを、自分自身で言える子に

笛吹市教育委員会

6月30日と7月14日、笛吹市教育委員会では、来年度笛吹市内の小中学校に入学予定の児童の保護者を対象にした保護者説明会を行いました。2年目となる本年も大勢の保護者が参加しました。当日は、市内の小中学校長代表と養護教諭代表、教育委員会から、保育所幼稚園と小学校生活の違い、小学校生活を迎えるにあたっての保護者や子どもの心構えなどについて説明がありました。特に「早起き・早寝・朝ごはん」の生活習慣や「自分のことは自分でできる・言える」など主体性を身につけてほしいとお話がありました。会場内には、メモを取りながら熱心に話を聞く、お父さん・お母さんが数多く見られました。



木の枝で小動物を作る

学びの広場ふえふき

夏休みが始まって間もない7月27日(金)、笛吹市スコーレパリオには小学生約30名が集まり、夏休み学びの広場の木工教室に参加しました。教室では指導員の福島孝一(御坂町)さんから、剪定バサミやカッターナイフの使い方について説明があり、「刃物で怪我をしたり、させたりしないように」と指導がありました。また、「上手くできない時はおじさんに言うように」とちょっと強面のおじさんからやさしい手が差し伸べられました。その後子どもたちは福島さんが加工したり、持ち込んだりした木材から木の枝を選び、小動物の工作に取り組みました。剪定バサミやカッターナイフを使い慣れていないようで、最初は思うように切ったり削ったりできませんでしたが、活動を初めて30分も経つとコツをつかみ、それぞれの小動物が完成へと近づいていきました。男の子も女の子も集中しながらも笑顔で活動に取り組み、夏休みの思い出づくりになりました。



シートウ・チェンツ・プー（グー・チョキ・パー）

八代小学校

7月9日（月）中国天津市の小学校の4年生20名が八代小学校を訪れました。はじめに全体会として体育館で小学4年生の児童との交流が行われ、八代小4年生からは歓迎の合唱『虹』が披露されました。一方、天津市の小学校からは、身振り付きのコーラスや中国オペラの独唱、クラリネットの独奏が披露されました。また、「じゃんけん列車」でふれあい、その際には、中国のじゃんけん「シートウ・チェンツ・プー」を教してもらいました。その後、3つのグループに分かれ、一緒に英語活動や日本の遊びで交流学习を行い、授業の後は一緒に給食も食べました。わずかな時間でしたが、充実した国際交流の時間を過ごしました。当日は中国四川省からの訪問団80名の小学生が5つのグループに分かれて笛吹市内の5校の小学校を訪問していました。



芋の露連山影を正しうす

境川小学校

7月17日（火）飯田蛇笏の生家である「山廬」の俳諧堂で、境川小学校の6年生41名が俳句教室を行いました。まず、飯田蛇笏の孫にあたる飯田秀實氏（山廬文化振興会理事長）より飯田蛇笏と飯田龍太について説明を受け、2人の代表的な句を復唱しました。その後、雨宮高文氏（山廬文化振興会理事）から俳句づくりの指導を受け、自分たちで俳句づくりを体験しました。雨宮氏からは「俳句には川柳と違って季語がある。」「俳句は引き算だよ。余分なものをカットする。」「自分の句を鑑賞したり、他の人の句を鑑賞して、良いところを見つけるのが、俳句のおもしろさだよ。」と、俳句の基礎を学びました。境川俳句部の曾根敦子氏・松井房恵氏も俳句づくりを支援する中、児童らは思い思いに季語や言葉を選び、大人顔負けの作品を発表しました。境川小では、3年生から俳句活動を行っていることもあり、雨宮氏からは「いずれもいいところを捉えているね。」と高い評価をいただき、また、他の人の作品からは新たな発見をもらい、俳句づくりの楽しさを満喫しました。



栖雲寺で修行・・・座禅体験

大和小学校

夏休みが始まって間もない7月27日（金）、大和町の奥、栖雲寺は下界の暑さが信じられないほど爽やかな風に包まれていました。ここで大和小の4年生～6年生20名が、学習会と座禅体験を行いました。栖雲寺住職の青柳さんからは「やさしさ」をテーマにしたお話があり、その後座禅の組み方や警策（きょうさく）の頂き方を教わり修行（座禅）が始まりました。座禅体験の前に行われていた学習会では引率の先生方と和やかに夏休みの宿題に取り組み、休憩時間には賑やかだった子どもたちの様子は一変し、水を打ったように静まりかえり、辺りには、遠くから聞こえる蝉の声や、鳥のさえずり、虫の音だけが聞こえ、静寂の時間が流れました。子どもたちは心の中の様々な欲求や苛立ちを抑えながら約20分の修行に耐えました。作法にのっとり、警策をいただく子ども数多くいました。すべてが終わると「あーっ、足が」「お腹空いた」と小学生らしい素直な言葉があちこちで響きました。



礼法教室

笛川中学校



夏休みを前にした7月3日、笛川中学校では2年生生徒31人が参加した礼法教室（マナー講座）が行われました。これは、職場体験学習を実施する事前学習として、基本的なあいさつ、礼の仕方、表情の作り方などを学ぶ授業の一環であり、講師に山梨県立産業技術短期大学准教授の田代明彦氏を招き実施されました。

最初に、マナーが良いと相手に好印象を与え、仕事ではコミュニケーションが円滑になること、接客ではお店の印象がよくなり信頼を高めること、清潔感のある身だしなみを大切にするなどのお話がありました。その後、立ち方やお辞儀の仕方を実際に行いました。どの生徒も講師の話に熱心に耳を傾けて真剣に取り組んでいました。きっと職場体験でも成果を発揮したことでしょう。

中学校体験授業

春日居中学校



7月11日（水）の午後春日居中学校に春日居小・石和北小の6年生が来校し、中学校の授業を体験しました。国語・数学・英語の授業をそれぞれ25分ずつ受けました。国語では、漢字の語源（象形文字）を学び、数学ではランプゲームで正負の数、英語はフォニックス（綴り字と発音の間の関係性）を学びました。小学生らは中学校の難しい学習に臆することなく積極的に参加し、先生方も丁寧で適確な指導で学習を助けました。また、授業の後は、中学生の合唱集会を見学しました。学年毎の発表でしたが、1年生は揃ったきれいな歌声を、2年生は調和のとれた洗練された歌声を、3年生は心に響く力強い歌声を披露しました。小学生は中学生の素晴らしい合唱を前のめりになって聞き入っていました。お兄さんお姉さんに圧倒されると同時に、憧れを抱き、自分たちもあんな風になりたいという意欲に駆られたことだろうと思います。この試みは平成23年から中学校へのスムーズな移行を狙いに行われており、その成果を着実に実らせています。

峡東地域中学校 部活動の活躍

山梨県中学校総合体育大会

柔道	男子	塩山中（準優勝）	サッカー	一宮中（優勝）
体操競技	女子	勝沼中（準優勝）		石和中（3位）
		石和中（3位）	ソフトボール	浅川中・石和中（3位）
バレーボール	女子	山梨南中（優勝）	ソフトテニス	女子 石和中（3位）
軟式野球		浅川中（3位）	卓球	女子 松里中（3位）
バスケットボール	男子	山梨南中（優勝）	バドミントン	男子 勝沼中（優勝）
ハンドボール	男子	山梨南中（優勝）		女子 勝沼中（優勝）
		塩山中（準優勝）	ラグビー	春日居中（3位）
	女子	塩山中（優勝）	弓道	女子 石和中（優勝）
		山梨南中（準優勝）	空手（組手）	男子 山梨北中（3位）
		山梨北中（3位）		

山梨県吹奏楽コンクール（中学校・高校）

学校名	成績	西 関 東 大 会 予 定		
勝沼中学校	中学校 B 金賞	9月15日（土）	群馬県	ベイシア文化ホール
日川高校	高校 A 金賞	9月 9日（日）	山梨県	コラニー文化ホール
山梨高校	高校 B 金賞	9月16日（日）	群馬県	ベイシア文化ホール

鉱物ストラップ、バスボム、ドライフラワー・・・ 日川高校

7月21日(土)連日の猛暑日が続く中、山梨市の気温は36℃まで上がりました。この日、日川高校ではスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の一環として小学校4～6年生を対象とした科学教室『サイエンスステップ』が開催されました。SSH指定も2期目に入り、本教室も第6回目を迎えました。教室は物理・地学・数学・生物・化学の5分野から11講座が同時進行で開講されました。講座に先立った全体会では、各講座の簡単なプレゼンが行われ、高校生は「顧客獲得」に向け、トークやパフォーマンスに工夫を凝らし、会場のやや硬い雰囲気や和らげました。講座は各20分で、4回行われ、参加した約50名の小学生は好きな講座を選び、ホストを務める高校生の引率で教室を巡りました。会場にはボランティア協力する中学生の姿も見えました。いずれの教室も盛況で、中には順番待ちの賑わいを見せる教室もありました。地域の小学生・中学生・高校生が交流しながら科学を「楽習」し、しばしの間、暑さを忘れました。



全体会



糸かけ曼荼羅



浮く惑星



ペットボトルロケット

インターンシップ

塩山高校・山梨高校



農園で精力的にスモモを収穫する様子

塩山高校・山梨高校では、夏休みを利用して、2年生を中心にインターンシップを実施しました。職場は様々で市役所、博物館、消防署、警察署、保育園、病院、老人ホーム、スーパー、小売店など多岐にわたりました。地域の活性化に向け若い力が求められる中、彼ら、彼女らの誠実な取り組みに頼もしさを感じました。笛吹高校でも11月に実施予定です。



老人ホームで折り紙の鎖作りを優しい表情でサポートする様子



蒸気がたちこめる中でも元気に桃ジャムの瓶詰め作業をする様子



7,500部もの市の広報誌の発送作業をてきぱきとする様子



ホテルで息の合った手さばきで布団カバーを交換する様子



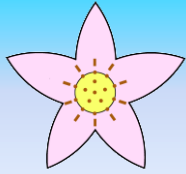
消防署で引き締まった表情で降下訓練を見学する様子

きっすチャレンジ小学生夏休み工作・自由研究教室

産業技術短期大学校

7月31日(火)、産業技術短期大学校では、「きっすチャレンジ小学生夏休み工作・自由研究教室」が開催されました。地域の小学生約50名がペットボトルで作るゴムで動く車作りやLEDで光る「あんどくん」作り、3Dめがね作り、塩山周辺の昔の建物探しに参加しました。「あんどくん」作りは参加者が多く、光センサーを備えた回路に興味津々でした。ペットボトルの車作りでは錐を使って穴を開けたり、輪ゴムをかけたり様々な工程に取り組み、ゼロからのものづくりを楽しみました。3Dめがね作りでは段ボールの眼鏡になる部分をカッターで切り抜きましたが、うまく円の形に切っていくのに慎重な作業が求められました。作業においては、先生方はもちろん大学校生のお兄さんたちが優しく丁寧にサポートしてくれていました。





山梨県立ろう学校

校訓 「己に克つ」

<学校紹介>

本校は県内唯一の聴覚に障害のある幼児児童生徒の教育を行う特別支援学校です。

今年度は幼稚部7名、小学部12名、中学部3名、高等部8名 計30名が在籍しています。昨年度から学校スローガン「しあわせ」(しっかりと取り組もう あかるく楽しく わたしとあなたと せかいへはばたこう)を新たに定め、学習や様々な活動に取り組んでいます。

今年度は学校スローガンに続いて、より学校に愛着をもてるようにと幼児児童生徒からスクールマスコットを募集しました。たくさんの応募の中から、みんなの想いをつなぎ合わせスクールマスコット「ゆっぴー」が誕生しました。誕生してからは、高等部行事で着るTシャツにプリントされたり、学校案内等に登場したりとさまざまなところで活躍しています。また、ゆっぴーのサインネーム(手話表現)も子ども達が考えてくれました。ゆっぴーが、ろう学校のみんなの気持ちをつないでくれているようです。そして、ゆっぴーに込められた想いのように、困難に負けず、一步一步前進して行って欲しいと願っています。「ゆっぴー」の由来は次のとおりです。

スクールマスコット「ゆっぴー」

名前は、” Young Outgoing People” (若くて、物おじしない社交的な人)の頭文字に由来する。顔は、本校がある峡東地域で収穫できる「桃」を表している。胸の”Y”は、「ゆっぴー」と「山梨県立ろう学校」のイニシャルで、着ている服は、本校のスクールカラー、ヴィヴィッドブルーである。「ゆっぴー」は、社会や世界で起こっていることを知り、強い脚で、困難にも負けず、一步一步、前進する。



スクールマスコット「ゆっぴー」

<卓球部全国大会出場決定>

8月20日~22日の3日間、茨城県ひたちなか市で開催された第67回関東聾学校卓球大会兼第55回全国聾学校卓球大会予選会に出場した様子を紹介します。

今年度の関東聾学校卓球大会は各地区から18校、約210名の選手が集まり、熱い戦いが繰り広げられました。本校からは男子4名、女子3名の高等部の選手が出場しました。

男子団体戦では、坂戸ろう学校、横浜ろう学校にそれぞれ、2-3、1-3と破れ、予選リーグ敗退となりました。女子団体戦では、大宮ろう学校、坂戸ろう学校、平塚ろう学校にそれぞれ、1-3、2-3、1-3と破れ、予選リーグ敗退となりました。しかし、その後の全国大会出場をかけた代表決定戦に進むことができ栃木聾学校に勝利しましたが、坂戸ろう学校に0-3と破れ、惜しくも全国大会の切符を逃してしまいました。

個人戦では、男女それぞれ3名が本校の代表として出場し、緊張と興奮の狭間に大きく揺れながら試合に臨みました。その中で、高等部3年生男子選手が個人戦6位に入賞し、11月2日から青森県で開催される全国聾学校卓球大会の出場権を得ることができました。本校の選手にはいない様々なタイプの選手が多く、苦戦した大会でしたが、この大会を通して卓球の技術だけでなく、試合に臨む姿勢や考え方など多くのことを学ぶことができました。来年こそは、部員全員で全国大会の切符を手に入れられるように決意を新たにしました卓球部です。

